



ペインクリニックー痛みを軽減し早期の社会復帰と自立を促すー

带状疱疹に伴う痛みを軽減する「神経根ブロック」療法について

たいじょうほうしん

徳島大学病院 麻酔科 外来医長 井関明生 いせき あきお

■問い合わせ 麻酔科外来 Tel.088-633-7179

■はじめに

当院麻酔科の主な業務は、「手術麻酔」と「ペインクリニック」ですが、今回はペインクリニックの最近の話題についてご紹介します。長く痛みは様々なストレスとなり、身体だけでなく精神にも影響して、今までの安定した生活が送れなくなったりすることがあります。こういった慢性的な痛みを生じないようにするには、早期から痛みを取り去ることが大事で、その有力な手段として神経ブロックが当科ではよく用いられます。神経ブロックは痛みの原因となっている神経に直接薬液を注入するため、直後はもちろんのこと将来的にも強い痛みが残りにくくなるのです。ペインクリニックではこの方法でまずは強い痛みを取り除き、その後薬物療法や理学療法などを組み合わせながら残った痛みをさらに和らげていくといった治療を行います。また同時に患者さんと細やかなコミュニケーションをとりながら痛みに対する理解を深めていただくことで、早く元の生活が送れるようサポートもしています。

■带状疱疹後の痛みは、 神経の炎症からくる後遺症

先にご紹介した治療方法は带状疱疹(たいじょうほうしん)に伴う痛みにも最も有効です。帯状

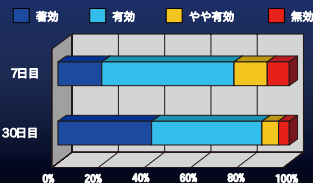
疱疹は俗に「ヘルペス」とも呼ばれ、幼少期に水疱瘡に罹られた患者さんが再発したときに現われるウイルス性疾患です。通常皮膚に疱疹(みずぶくれ)が見られますが、それよりもこの病気は神経に炎症を生じるので、患部にかかなり強い痛みを伴うことが特徴とされています。この炎症の大きさが後に残る神経痛の強さに関係するため、早期の消炎・除痛が望まれるのです。带状疱疹の治療としては抗ウイルス薬や消炎鎮痛薬の投与が一般的ですが、特に後者は全身投与になるため鎮痛力がやや弱く、また大量に使うと胃潰瘍などの副作用が問題となります。

一方、炎症部位に局麻薬とホルモン剤を直接注入する「神経根ブロック」は、こういった副作用はなく、他の方法と比べものにならないほどの強い消炎・鎮痛が得られるので、患者さんの満足度の高い治療として評価されています。

■「神経根ブロック」の実際と予後

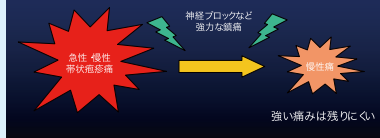
この「神経根ブロック」はレントゲン装置を用いることで、安全かつ確実に行うことができます。通常5～10分程度で終わり、入院の必要はありません。鎮痛の度合いは図に示すように強力であり、かつ痛みの再発予防効果も認められます。とはいえ、治療後全く元どりの感覚が甦

神経根ブロック後の除痛効果



带状疱疹疼痛治療の工夫

急性期の強い痛みをできるだけ早く取り除くことで、慢性期に生じる痛みを軽減する



るというわけではありません。先に記したようにどうしても神経に大きなダメージが生じるため、なんらかの痛みや痺れ、痒みといった不快な症状は多少残ってしまいます。もっとも、このような症状もその後の特殊な薬物療法や理学療法で和らげることはできます。一般に带状疱疹の後に生じる痛みの大きさに影響する因子として、「年齢」や「水疱の広がり具合」、「水疱の現われた部位」、「治療開始時期」などが言われています。

高齢者で带状疱疹が疑われる場合は、このような後遺症としての痛みを少なくするために、できるだけ早く専門医を受診されるよう心がけてください。